

## 1-4 メコン河～世界最大の淡水漁場

### メコン河流域の高い淡水魚の消費量

メコン河下流4か国の淡水魚の漁獲高は、国際連合食糧農業機関（Food and Agriculture Organization = FAO）の統計では、75万トﾝ／年だが、流域で実施されたフィールド調査から推定できる数値は210万トﾝ／年にのぼり、世界の淡水魚の漁獲高の18%を占める、とされている。また、FAOの統計をもとに計算すると、淡水魚の一人あたり年間消費量は、メコン河下流域で13.8kgだが、世界平均は2.3kgでしかない。カンボジアでは年間消費量が19.4kgにのぼり、世界のどこよりも高い。別の20件の淡水魚消費量の調査をまとめると、平均値は、カンボジアで32.3kg、ラオス24.5kg、タイ24.9kg、ベトナム34.5kgと、数字は、さらに跳ね上がる。

FAOのデータ（2000年～2003年）では、人びとが一日に摂取する動物性タンパク質のうち、淡水魚が占める割合は、カンボジアで49.8%、ラオス38.31%、タイ16.19%、ベトナム12.87%となり、世界平均5.78%と比較して非常に高いことが分かる。とくにカンボジアとラオスで突出している。



### メコン河の漁業の経済的価値

メコン河流域の捕獲漁業の漁獲高は、最新の情報で、年間21億～38億ドルの経済価値があり<sup>1</sup>、小売価格では、42億～76億ドルになると推定されている（ICEM 2010）。

ラオス南部のコーンの瀑布群付近におけるメコン河本流では、漁業は6万5,000世帯以上を支える産業である。この地域の平均的な世帯では、年間355kgの魚を捕獲し、249kgの魚を消費しているとみられている。コーン瀑布付近全体では、4,000トﾝ／年の漁獲高があり、その経済価値は45万～100万ドルに相当すると推定されている（Baran et al. 2008）。

カンボジアでは、養殖をふくめた淡水魚の生産量は、国内総生産（GDP）の11.7～16%、または、8～12%を占めると推測されている。小規模な漁業者の実態を捕えるのは困難であり、これらの数字はすべて推測であるが、この不十分なデータからも、メコン河の漁業の重要性がうかがえる（ICEM 2010）。

### 生活と文化を支える魚

現在、メコン河流域の魚は、冷蔵施設と交通網の発達にともない、国境を越えて流通して

いる。魚は、実は、現在のような流通制度が成立する以前から、物々交換の重要な交換品となっていた。50年ほど前には、ラオス南部やタイ東北部をふくむ広い地域で、魚とコメの交換が行われていた。ほぼ自給自足の暮らしをしていた時代、人びとは食料を確保するために、採取にかなりの時間を割いていた。農業が主生業の村では、田植えや稲刈りの農繁期に副食を入手する時間をとるのが難しくなる。一方、魚のたくさん捕れる川沿いの村落では、魚を塩漬けの発酵食品や干物に加工し、必要なものと交換する習慣があった。食料は、物々交換で地域を流通していた。

また、この交換には、実用的な要素だけではなく、社会・文化的な意味もあった。東北タイの70代の女性の話では、若いころ、干物や発酵食品をたくさん作り、牛車につみ、しばしば友人といっしょに、行先を決めずに出かけたという。そして出会った人と交渉し、持っている魚をコメやその他の農産物と交換した。米と魚の交換レートは決まっておらず、そのとき自分に余裕があれば余分に相手に与え、余裕がなければ相手と交渉し、たくさんコメをもらおうということをしてきた。この交換の際に重視されるのは、「物惜しみしないこと」だと言う。

当時、コメも魚も市場で流通しておらず、現金化することもできなかった。そのため、人びとにとっては、数値的なレートを定める意味はなかったと想像される。また、魚やコメといった長く保存できないものをたくさん持って無駄にするより、他人に気前よく与えて自分の評判を上げ、人的なつながりを強化する方が不測の事態に備えられるという社会的な背景があったのだろう。また、聞き取りでは、知らない村に出かけて人と交流し、新しい友人をつくるのが楽しみとされていたこともうかがえた。交換をして仲良くなった人同士は「シヤオ」<sup>2</sup>と呼びあい、頻繁に行き来するようになる。そのうちお互いの一族から婚姻関係を結ぶ者も出て、友人から親戚関係となり、社会的な結びつきが強化される。

魚が容易に現金化できるようになった今、昔のように魚を分けることができなくなった、と嘆く高齢者は多いが、南部ラオスでは漁獲高の多いとき、魚は、今でも親族や友人に配られている。また、東北タイの村では、漁獲高が少なく、市場に出荷する燃料費に見合わない時、その魚は、村落内で安価に販売されることになる。メコン河流域の魚は、現在も、社会的な関係を強化する重要な要素であり、現金収入の道が限られる人びとの食料安全保障を支えている。

<参考資料：英語>

Baran, Eric, Jantunen Teemu, and Chiew Kieok Chong, 2008. Value of Inland Fisheries in the Mekong River Basin, Tropical River Fisheries Valuation: Background Paper to Global Synthesis 227-290.

International Center for Environmental Management (ICEM). 2010. Mekong River Commission (MRC) Strategic Environmental Assessment (SEA) for Hydropower on the Mekong Mainstream: Fisheries Baseline Assessment Working Paper. Vientiane, Lao PDR: MRC.

<http://www.mrcmekong.org/about-the-mrc/programmes/initiative-on-sustainable-hydropower/strategic-environmental-assessment-of-mainstream-dams/>

(木口由香)

---

1. BP をととして、「ドル」はすべて「米ドル」を意味する。  
2. 「親友」というような意味。